

音楽科 学習指導案

日時 平成24年10月10日(水) 6校時

会場 音楽室

生徒 2年B組(男15名 女11名 計26名)

授業者 細谷地 美奈子

- 1 題材名 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌おう
教材名 「時の旅人」 深田じゅんこ 作詩/ 橋本祥路 作曲

2 題材について

(1) 教材観

楽曲全体が4つの部分から構成されており、それぞれの部分が歌詞の内容と関連させながら、速度、調性などの変化の工夫がみられる。また、どのパートも無理のない音域で作られているため、変声途中の男子も少なくない本学級にとって、自分たちで考えた工夫を実際に表現することも技能的に取り組みやすいと考える。声部の役割を理解する上でも、和声的な部分と多声的な部分、ユニゾンなど合唱の基本的な要素をとらえやすい教材のため、この題材を学習する上で取り組みやすいと考える。歌詞の内容も中学生の心情をよくとらえたものであり、生徒一人一人が自分の思いを込めて表現するのに適した教材である。

(2) 生徒観

本校では帰りの短活での合唱、学期末の集会等日常生活に合唱を取り入れている。比較的取り組みやすい楽曲を親しんで歌っている。また、「強弱」「速度」などの基礎的な用語については、理解している生徒も多い。よって楽譜上に書かれている記号を頼りに表現しようという姿勢はみられる。だが、表現する際に手がかりとなる歌詞の内容とそれに合った旋律の工夫や速度、日本語の発音とリズムの関係、形式など音楽を形作っている諸要素やその要素同士の関連を意識できない生徒が多かった。それをふまえて、1学期は教材の中で前述のような学習を意図的に取り入れ、歌詞と音楽を形作っている要素との関連や速度が楽曲にどのような働きをもたらすかなどについて気づくこと、またそのことをどのように表現に結びつけていくかについて学習を進めてきた。それらの学習を基盤として、合唱活動を通して声部の役割やテクスチャについて学習することで、自分たちで主体的に合唱を創りあげる楽しさを味わわせたい。そのために音楽的な諸要素を理解し、曲に対する個々のイメージを集団で共有しながら、それをより具体的に声で表現するために、どのような工夫が必要か試行錯誤しながら学習を深めることができ、表現力の育成につながるものとする。

(3) 指導観

本題材では学習指導要領【第2学年及び第3学年】内容(1)A 表現の(1)歌唱の活動を通して指導する事項であるア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと」とウ「声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと」また、共通事項「旋律」「テクスチャ」「速度」に関わる学習を進めたい。楽曲の4つの部分の中から一部分についてどのような歌い方がふさわしいのかを考え表現する活動を通して、曲全体また他の楽曲の表現へ応用する能力を育成することが可能になると考える。また、範唱と自分たちの合唱を比較して聴き取ることで、歌詞と旋律や速度の関係を理解し、どのように工夫をすればよいのかを客観的にとらえさせたい。また、個々の音楽的感受を全体で共有し合唱に生かすことで、お互いの声や気持ちを合わせる喜びや表現する楽しさを味わわせることができる。

(4) 研究とのかかわり

- ・本時ゴールを明確にする課題設定<導入>
歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫して歌う。
- ・言語活動を充実させた活動による課題解決<展開>

表現の工夫について個々の考えを持ち寄って、グループで話し合う。

- ・集団の学びを個に返すまとめと評価<終末>
- 各グループの工夫を実際に合唱して確認する。

3 指導と評価の計画

2年音楽	題材名	歌詞の内容や曲想を味わい曲にふさわしい表現を工夫して歌おう			総時間	4時間
学習指導要領の指導事項				題材目標		
A表現 1ア 「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと」 ウ「声部の役割や全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」				①歌詞の内容や曲想、言葉の特性に関心を持ち、楽曲にふさわしい表現を工夫して歌う学習に意欲的に取り組む。 ②声部の役割や全体の響きとの関わりを感じ取って歌唱表現を工夫する。 ③歌詞の内容や曲想に合った表現をするために必要な技能を身につけて歌う。		
音楽への関心・意欲・態度		音楽表現の創意工夫		音楽表現の技能		
歌詞の内容や曲想の変化を感じて、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。		強弱、旋律、日本語のもつリズムや抑揚、速度を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、歌詞の内容や日本語のもつリズムや抑揚を感じとって、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌っている。		音楽表現するために必要な発声、発音、呼吸法などの技能を身につけて歌っている。		
時間	主な学習活動	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能		
1	音程やリズムに留意して、正確に歌う。	歌詞の内容や曲想に関心を持ち、主体的にパート練習に取り組んでいる。【観察・ワークシート】				
2	音楽を構成している要素を知覚し、歌唱表現しながらそれらの働きを感受する。		自分の担当した部分について、曲にふさわしい工夫はどうあればよいかを試行錯誤し記述する。【ワークシート】			
3 (本時)	歌詞の内容や旋律と他の要素のかかわりを考えながら、表現を創意工夫する。		表現の工夫について各自意見を持ち共有し合い、それを生かした歌い方をしている。【観察・聴取】	工夫した点についてふさわしい表現で歌唱している。【演奏聴取】		
4	歌詞の内容や曲想、全体の響きの調和を感じ取って合唱する。	歌詞の内容や曲想、全体の響きを感じ取り、主体的に表現しようとしている。【観察】		それぞれの曲想に合った発声や諸要素を生かした表現で歌唱している。【演奏聴取】		

4 本時の目標

歌詞の内容と強弱や速度に合った表現を工夫する。

5 本時の指導 (3/4)

	学習活動	学習内容	指導のための工夫	評価の観点・方法
導入 5分	1 前時の学習を振り返る 2 本時の課題を把握する	○「荒城の月」を歌う。 速度による雰囲気の違いを聴き取って歌い方を工夫しよう	○速度は特に指示を与えずに歌わせる。	
展開 35分	3 課題を迫及する 4 全体で話し合う	○原曲と補作編曲を聴き比べる。 ○感じ取ったことを発表する。 ○どんな歌い方をするとそれぞれの特徴を表現できるか考える。 ○全体で話し合ったことをまとめる ○原曲と編曲をそれぞれ歌ってみる	○どんな感じがしたかをシートに記入しながら聴かせる。 ○自由に発表させる。 ○各自シートに記入後、左右の人と共有させる。 ○話し合ったことを全体で確認する。 ○感じ取った雰囲気を意識して歌わせる。 (doloroso を意識しながら)	学習シート 速度の効果を感じ取っているか 雰囲気に合わせて歌っているか
終末 10分	4 自分の考えを再構築する 5 次時の見通しをもつ	○速度がもたらす変化や効果についてまとめる ○DVD で「荒城の月」の独唱を鑑賞する。 ○さまざまな「荒城の月」を鑑賞し、批評文を書くことを知る。	○音楽の特徴を形成している大事な要素の一つだということに気づかせる。(1, 2名発表) ○DVD から補作編曲の雰囲気をとらえさせ、次時への意欲の喚起につなげる。	